

優秀賞

キャッチフレーズ

## 2つのお庭のある焼杉のお家

設計者：中村 健一郎（相羽建設株式会社）

応募者 施工者：相羽建設株式会社

造園デザイン：小林 賢二（小林賢二アトリエ）

### 建物概要

建築面積 54.65㎡

延べ面積 91.91㎡（1階 49.68㎡ 2階 42.23㎡）

### 設計趣旨

#### 二軒をつなぐ二つの庭

ご両親の家の庭だった場所に建てられた住まいです。道路と建物間の前庭、お隣のご両親のお住まいとの間にある中庭、2つのお庭を持っています。前庭は玄関アプローチを兼ね、焼杉を背景にモミジやダンコウバイが街並をつくれます。また、玄関には下屋を設け、近所の方とお話したり、子どもたちが遊んだり、そんなことが自然に出来る場所に。中庭は北側にあるご両親のお住まいとお庭をシェア。それぞれのリビングからつながっているので、一緒にご飯を食べたり、子どもの遊び場になったり、前庭よりプライベートな場所となります。

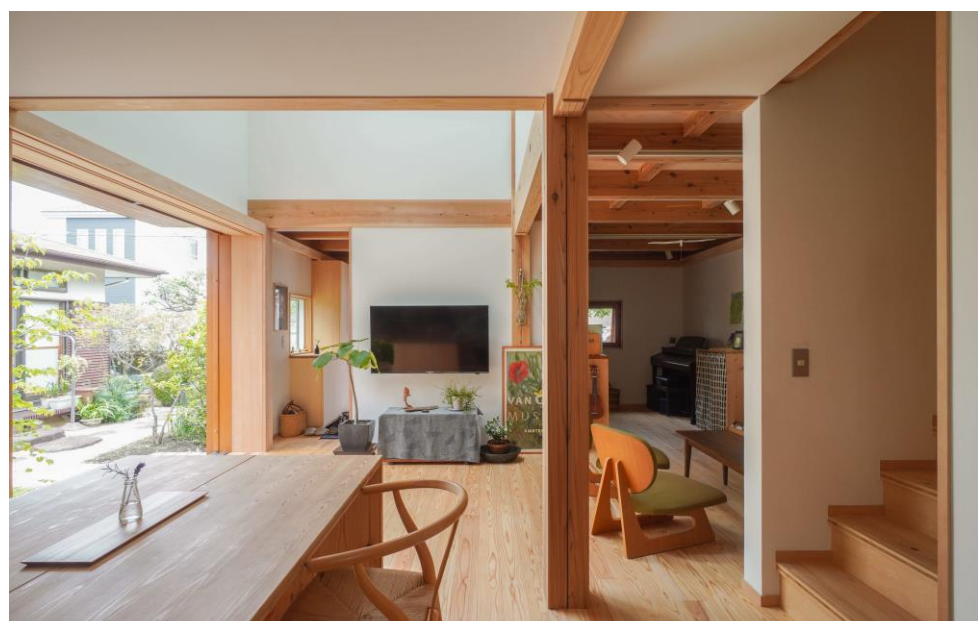
#### 南に開かずとも心地の良い空間に

両親の家との間にある中庭は北側。そのため、建物は北側の中庭と東側の前庭を正面にして主な窓を設けています。南にはあまり開かない計画なので、第一に建物の断熱性能を高めること（HEAT20・G1）と、リビングの吹き抜けを介して天窓から採光する計画としました。寒さ・暑さが気になる吹き抜けですが、2階の居室は壁と障子で仕切ること、明かりをほどよく取り入れながら熱環境が保たれるように配慮するなど、南に開かずとも心地よく暮らせる工夫をしました。

### 各階平面図



焼杉も国産材を使用。焼杉の墨色、木のサッシの橙色、庭の緑のコントラストが美しい外観となりました



主採光は北向きでも天窓から安定した光が室内に届き、明るいLDK



ポーチより前庭を望む

アプローチから中庭へつづく



ご両親の家からみた「シェアする中庭」と北側ファサードの様子。「外観を自分たちで作ることも考えましたが、祖母が手塩にかけた庭との繋がりを考えてプロにお任せしようと、造園家の小林賢治さんに依頼しました」（施主）。芝生の植え込みやウッドデッキは施主のDIYです。



窓からの光が気持ちいい木質のキッチン。圧迫感のある吊り戸棚ではなく食器を飾る飾り棚と白いタイルで設え、軽やかなイメージに。キッチンの横には冷蔵庫や生活用品を全て収納できる大容量のパントリーをとり、リビングダイニングがすっきりと片付くようにしました。



2階の吹き抜けに面したスペース。現しの傾斜天井部分が子ども部屋で、お子さんが小さな現在は圧迫感のないカーテンで間仕切り、オープンな使い方をしています。奥のスペースは程よい籠り感がありながら、窓から外の様子が伺えるので、リラックスしながら勉強できるとのことです。